

9月9日は救急の日です！

子どもは思いもよらぬ行動をします。部屋を子どもの目線で点検し、危ない物など、救急時の対応を確認してみてください。思わぬ事故につながる要因はいくつもあります

<窒息>

食物では、もち・パン・ご飯が窒息の原因に多くありますが、ナッツ類・アメやぶどう・ミニトマト等も詰まることがあります。また、グミやこんにゃくゼリー等でも窒息が起きるといわれています。

玩具類では、スーパーボールやおもちゃの部品、ビニールやシールのかけらで事故が起こったこともあります。

食事中はもちろんですが、遊んでいる際は子どもから目を離さないようにしましょう。母子手帳にも記載がありますが、トイレットペーパーの筒の大きさの物は、子どもの口に入る可能性があります。

<誤飲>

たばこや薬、洗剤等は気をつけていると思いますが、ピアスやボタン電池・硬貨や針・磁石などの誤嚥も起きる可能性があります。また、除光液や漂白剤・先が尖ったものなど絶対に吐かせてはいけないものもあります。事故を防ぐためにも、子どもの手の届く所に上記のようなものを置かない様にし、誤飲したかもしれない時には必ず病院へ。迷った時は、下記を参考にしましょう。

日本中毒情報センター 029-852-9999 (365日9時~21時)

<転落>

階段や洗濯機・玄関・ベッドやソファ・椅子・お風呂を覗き込んでの転落等の事故が家庭では起きやすいです。ベランダや窓のそばに踏み台となるようなものを置くことも危険です。また、お風呂に残り湯があると転落し溺れてしまうこともありますので、残し湯をしないようにしましょう。

<やけど>

炊飯器や加湿器の蒸気やストーブ・アイロン等のやけどが多いといわれています。また、テーブルクロスを引っ張りスプーンやポットを倒してしまいやけどをしてしまう事もあります。

病気やケガで受診を迷う時、**小児救急電話相談#8000** や、**東京消防庁救急相談センター#7119** へ相談してみましょう。